

Kandai Style

2023.1 Vol.504
関西大学通信



関大版いろはかるた



いろはかるた

昔のお正月の遊びといえば、凧揚げ、羽根つき、かるたなどが定番でした。現在ではお正月の遊びも様変わりしましたが、今月号は「かるた」に的を絞り、「関大版いろはかるた」を作成しました。作成にあたって、学生の皆さんに協力をお願いしたところユニークなものから、お堅いものまでさまざまな作品が集まりました。また芝井理事長と前田学長にもご協力いただきましたので、「かるた」を通して「関大愛」を深めていただくことができるでしょう。

い 岩崎記念館 英語ニュースが流れる

ろ 六法全書が必需品の法学部

は 馬場に感動！高槻キャンパス

に 入学試験お守りを手に本番へ

ほ 法文坂、一気に登れず定年だ(理事長)

へ 勉強中小腹が空いたらOeat(エイ)

と 友達ができるか心配 入学式

ち 遅延して登校遅れる阪急線

り 留学の情報満載！SAセンター

ぬ 抜きつ抜かれつ関関戦

る ルーツをたどる博物館

を オシャレでしょ大学内にスターバックス

わ ワンコイン 幸せを感じる百円ご飯

か 関東で就活するなら東京センター

上 幼稚園から大学院まで学ぼう関西大学



た 滝のせせらぎ以文館前

れ 歴史を刻み成長続ける 関大通信

そ 本論に追われて向かう 関大図書館

つ 辛いなぁ休み明けの月曜日限

ね 熱意を込めてエールを送る応援団

な 仲間と楽しいランチタイム 悠久の庭

ら 来年も再来年も歌が続けたい学歌がここにある

む 胸に刻みし道徳の歌

う ウグイスに、モズに、白鷺、高キャンの森

の 一度はのぞこう梅田キャンパス

お 伸びしろしかない関大ライフ

く オムライス 2限終わりの争奪戦

ま 草の根の交流続く堺キャンパス

か 夜景が絶景 高槻キャンパス

け 待ち合わせ場所はいつもの時計塔

こ 建学の心学の実化で教育研究(学長)

さ 複雑な履修登録に苦戦中

あ 甲子園9つの広さの千里山キャンパス

こ 駅から近くて便利なミニーズキャンパス

あ 雨の日は利用者増えるエスカレーター

さ 堺にも実はキャンパス二つある

き 急病ヤケガはお任せ保健管理センター

ゆ 油断するな学舎移動

め 名物の関大プリンいざ食わん

み 未来のあらゆるリスクに対応する社会安全学部

し 芝生でのんびりあすかの庭

る 遠慮せず意見ぶつけるゼミナール

ひ 引き込まれるフタバの彫刻 たり着けないキャンパス

も 模擬店で大にぎわいの学園祭

せ 世界中から集まる留学生

す スケートリンクが自慢の高槻キャンパス

て 天下茶屋か 梅田行きで 一喜一憂



撮影・編集の疑問を解決しよう!

関大生に動画に関するアンケート調査をしたところ、94%がスマートフォンで動画を撮影したことがあり、その内の87%が「もっとうまく動画を撮りたい」と思ったことがあると回答しました。一方で、撮影される側として、SNSなどに勝手に投稿されるなど嫌な思いをすることが増えたそうです。今月号では、スマートフォンに特化した動画撮影・編集のコツを紹介しますので、動画ツールを正しく使用方法や肖像権について学び、楽しい思い出をたくさん記録に残してください!

アンケート期間:2022年9月21日~10月9日 対象者:学生 回答者数:225人

▶ 撮影 で知りたいことランキング (複数回答可)

- 1位: 風景、人、室内など状況に応じた撮影の仕方 **141票**
- 2位 (同率): 構図/光 **116票**
- 4位: 構え方 **82票**

まずは基本の構図を紹介!

三分割構図

画面の縦横をそれぞれ三分割して、線が重なるところのどこかに被写体を置く構図です。画面の中に空間が生まれ広がりのある構図になります。

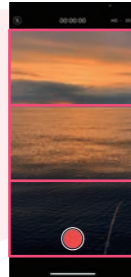


日の丸構図

被写体が画面の真ん中にある構図です。力強い印象になります。ただし鮮やかさがなく飽きられやすいので注意!



他にも、「斜め二分割構図」や「三分の一構図」もあります。



「グリッド(縦横三分割線)」を **ON** にすると便利です。
(iPhoneの場合: **設定** → **カメラ** → **グリッドON**)

光の加減や撮影の時間帯によって 雰囲気の変化!

▶ 動画撮影時、急に画面全体の色が変わったりしたことはありませんか?

そんなときはWB(ホワイトバランス)を固定! Androidであれば、標準カメラアプリのWBの機能がありますが、iPhoneはWB調整機能が標準装備されていないので、動画制作アプリ「MAVIS(マビス)」などを使ってください。

▶ 撮影する時間帯によって、雰囲気が変わることを知っていますか?

早 朝 透明感があり、植物を撮ると生き生きとした印象に。 風景撮影向き	午前中 自然光が当たる角度を調整しやすく、肌の柔らかさを演出しやすい時間帯。 人物撮影向き	昼~夕方 一番コントラストが出る時間帯。被写体に影ができてしまうと暗い印象になりやすい。 風景撮影向き	夕 方 哀愁が感じられる時間帯。 風景撮影向き	日 出 後、日 没 前 マジックアワーと呼ばれる時間帯。太陽光の加減で非日常的な写真を撮影することができる。 風景撮影向き
---	---	---	---	---

白い紙を周りに配置して被写体に光を集めることで「レフ板効果」も期待できます。

見やすい動画にするために!

手元が揺れて動画がぶれてしまわないようにするには、スマートフォンを両手で持ち、脇を締めてアングルを固定してください。専用の三脚やジンバルを使うと、より固定できます。



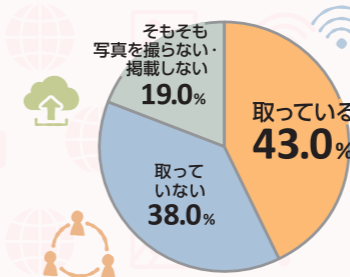
▶ 編集 で困ったこと

- 不器用なので時間がかかり、諦めてしまう。 社会学部2年次生
- スマートフォンは画面が小さくて使いにくい。 社会安全学部3年次生
- 野暮ったい編集になってしまう。 総合情報学部4年次生
- どのようなアプリを使ったら良いのかが分からない。 文学部4年次生
- カットがずれて違和感が出る。 法学部1年次生

関大生がお薦めする 動画編集のスマートフォンアプリ

iMovie 7票	InShot 6票
CapCut 6票	VITA 3票

▶ SNSなどで他人の顔が写っている写真や動画を掲載する場合、顔出しの許可を取っていますか?



関大生の多くは掲載許可を取っているようですが、学園祭など人が多く集まる場所で撮影をするときには、その写真や動画に関係のない人が写り込まないように配慮しましょう。

SNSの投稿を見て気になることを尋ねた質問では、写っている人の許可を得ずに掲載されていることについて一番多く意見が寄せられました。人の顔などを勝手にウェブ上に公開する行為は、肖像権侵害となることがあります。「肖像権」とは、「みだりに自己の容ぼう等を撮影され、これを公表されない権利」のことです。スマートフォンが普及した今、肖像権侵害は身近なところに潜んでいます。

権利侵害をされたらどうしたらいいの?

発信者が友人などで直接連絡が取れる場合は、まずは当事者に差し止め請求をしましょう。差し止め請求に応じてくれない、発信者が誰か分からない場合、SNSであれば、その運営者に削除を求めることができます。さらに「プロバイダ責任制限法」という法律などにより、プロバイダやサーバの管理・運営者などに対し、発信者の情報の開示を請求したり、投稿の削除を依頼したりすることができるようになっています。開示請求や削除依頼を行う際には、証拠として保存するために、メールや文書で行うとともに、誹謗中傷などにあたる書き込みや動画などが掲載されている掲示板のURLやアドレスを控え、該当する画面や動画は、保存しておきましょう。
政府広報オンライン「インターネット上の人権侵害に注意!」(<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/200808/3.html>)



PROFESSOR'S COMMENTS
総合情報学部 長谷海平准教授

素敵な時間や偶然出会った面白い出来事などは記録に残しておきたいものですね。では、記録を素敵に残しておくためには何に気を付ければいいのでしょうか。スマートフォンを使って撮影する際には上記で紹介されていたほか、次

のような注意点があります。

①スマートフォンを使った撮影は、通常のカメラよりも被写体が小さく見えることがあるので、撮影する前に被写体をよく確認し、適切な距離をとる心がけましょう。

②背景にも気を付けましょう。主役である被写体だけが写真に写るのではありません。写りたい背景が主役に隠れていないか、もしくは写してはいけないものが写りこんでい

ないか気を付けましょう。

スマートフォンを使った撮影では写真や動画をすぐにSNSなどで共有することができます。しかし、他人のプライバシーや個人情報を侵害するような写真や動画を投稿することは適切ではありません。撮影したあとは自分自身や他人のプライバシーを尊重し、写真を通じた記憶も素敵に保てるようにしましょう。

次回のテーマは…「社会保障制度について」(仮)

学生の皆さんや皆さんにとって大切な人の生活を支える社会保障制度。3月号では、皆さんが社会に出る前に、社会保障制度を知り、理解を深め、2040年問題について考えるきっかけとなるよう、誌面で紹介します。

なんばグランド花月



エンターテインメント業／マネジメント

吉本興業株式会社

吉岡 潤喜さん

千葉県立検見川高等学校出身
2018年人間健康学部卒業

笑っている人を見ると幸せを感じます。
それを体感できる会社を選びました



吉本興業株式会社に勤務する吉岡潤喜さんは、所属する芸人のマネジメントを行っています。主な業務は、スケジュール管理、出演交渉や営業、イベント企画などです。入社して最初の2年間は若手芸人を30組ほど担当。その経験を経て3年目からは、西川きよし、オール阪神・巨人、テンダラーという、ベテラン師匠方の担当を任せられるようになりました。

「吉本に入って大変だとかつらいだとか感じたことはありません。仕事で会う方も劇場に来られるお客さまもすべて一期一会。多くの人と関わることや毎日が昨日と違うところに、この仕事の魅力を感じています」と言う吉岡さん。自分が立てた企画が実現し、開演時にお客さまからの拍手を聞く瞬間にやりがいを感じるそうです。「2022年は吉本興業創業110周年の節目の年で、私が企画した記念イベントも3つ実現しました。自分の企画が劇場でお客さまに届くその瞬間が毎回感動します」と語ります。

「笑うこと、笑っている人を見ることに幸せを感じます。それを体感できる仕事＝吉本だ！と思ったので、実は就職活動は吉本興業しか受けていません」と言う吉岡さん。大学時代は人間健康学部の新設されたユーモア学専攻の一期生として、昔のお笑いや遊び、笑いの効能や文化を学んだほか、授業の一環として吉本新喜劇の舞台や、笑いを大切にしていた商人の町・黒門市場などへ実際に行くこともあったそうです。

また、体育会野球部のマネージャーとして、リーグ戦の運営に携わり「立場も年齢層もさまざまな方々と関わる中で、自分は表に出る人を裏で支えることに適性があると確信できた」と言います。自分の適性から将来の仕事イメージできたことが、吉本興業への志望につながりました。

「学生時代はいろいろな世代の方と話をしてください。その話や経験に刺激をもらいながら、自分に合うところを探してほしい。自分にとって、オンリーワンと思える道をぜひ選んでください」と後輩にアドバイスをしました。

ある1日の
スケジュール

11:00 出社
11:30 なんばグランド花月入り
劇場出演現場フォロー
12:30 昼食
13:30 事務作業
(資料作成、メールなど)
16:00 テレビ局入り
生放送現場フォロー
19:30 テレビ局を出る
(帰宅)



かばん、手帳、名刺入れ、携帯電話。かばんは、西川きよし師匠からプレゼントしていただいたものです！大事に使っています。

Management

VIVA!!

学び易



教育推進部

「プロジェクト学習1」

山田 嘉徳 准教授

学問とは「問うて学ぶこと」

本質を捉え深く問い掛ける力を身に付ける。

「プロジェクト学習1」は1年次生対象の共通教養科目で、山田嘉徳准教授のテーマは「学びの主人公としての『私』を探る」です。心理学を専門とする山田准教授は、授業のテーマや課題のあちらこちらに、「自分で気付いていく仕掛け」を散りばめているそうです。「高校生から大学生になると、学生はいろいろなことを学んでいく中で自分のことを知ろうとします。ですが、一人ではなかなか自分のことは分からないので、心理学的ツールを用いたグループワークによって、よりよく自分を見つめることにつながればと思っています」と話します。

例えば、チームで合意形成のプロセスを体験する「NASAゲーム」では、質問に対する回答を一人一人が考えグループ内で発表し、話し合いを重ねてグループとしての回答を出します。「根拠をもってよく話し合ったチームは、模範回答に近い回答を導き出せます。この経験を通して、チームで自分の役割を果たしみんなで考えることの大切さや、合意形成することの難しさを体験できます」。また、実践として、他者を通して自分を知ることが目的に、二人一組で他クラスの学生にインタビューを行います。「実際にインタビューをするまでには、模擬インタビューを何度も行い、聞き方や話し方など念入りに準備します。どうしたら人は話しやすいのか、聞きたいことを聞き出しやすくなるのか、いろいろ試してもらうようにしています」と山田准教授。そして、インタビュー結果の発表時には、発表する学生が自分の良いところを客観的に知ることができるよう、発表を聞く学生に「いいところをメモに取って教えてあげてください」と伝えるようにしているそうです。

「授業を通して、しっかり聞き本質を捉え、『なぜ』と深く問い掛ける力を付けて2年次以降の専門的な学びに生かしてほしいです。そして、探究することを楽しみながら、疑問を持ったこと、興味を覚えたこと、自分の中から生まれた『問い』を大事にしてください。その問いを自分で深く探っていく姿勢を、この授業で仲間と共に学んでもらえたらと思います」と締めくくりました。



澤田 凧紗さん (商学部1年次生)

高校時代からプレゼンテーションが得意だったので、プレゼンテーションを行うこの授業に興味を持ち受講しました。高校生の時は準備に時間をかけていましたが、大学の授業では、限られた時間の中で内容を掘り下げまとめる力が必要となるため、新しく学ぶような気持ちで臨んでいます。グループワークは活気があって、先生も優しく穏やかで、とても安心して学ぶことができます。



上城美咲さん (経済学部1年次生)

春学期にこの授業を履修していた友人から面白かったと聞いて受講を決めました。難しい課題でも、先生のアドバイスが的確で分かりやすく、一つ一つの課題にやりがいを感じています。他学部の人と交流できる点も新鮮で刺激を受けています。情報を整理して人に伝えること、掘り下げて探究していくことは、学業はもちろんのこと、社会人になってからも生かせると思います。

「世紀の発見」再現など関大博物館のお宝 ——有名古墳の壁画再現や復元など——

関西大学博物館は、その前身が考古学の泰斗、故末永雅雄名誉教授によって開設された「考古学等資料室」で、基幹となる考古学資料以外にも、新たに館が収集したものや篤志家からの寄贈など膨大な資料を所蔵しています。実物資料を補完するための復元・再現資料も重要であり、今月号ではその一部を紹介します。

高松塚古墳の極彩色壁画を再現

あすかの庭の横に小さなガラス張りのドームがあります。「世紀の発見」と言われた高松塚古墳(奈良県明日香村)の石室を再現した野外展示室です。この古墳は1972(昭和47)年に末永名誉教授の指導で、当時の文学部の網干善教助教授(後に名誉教授)らが調査して極彩色の壁画を発見し、一躍注目されました。壁画は発見直後に撮影された写真をもとに女子群像や天文図などを原寸大で美術陶板に焼き付けたもので、石室内の様子子が精密に再現され、2008年の開設以来、今も見学者が絶えません。



高松塚古墳壁画再現展示室



西女子群像



藤ノ木古墳の石棺の複製

藤ノ木古墳の巨大石棺を複製

この博物館にもう一つ、1階エントランスにでんと展示されているのが、藤ノ木古墳(奈良県斑鳩町)の石棺の原寸大の複製です。底面が235cm×130cmで高さ97cm、棺の厚さは50cm余りの巨大なもので、赤色顔料で塗られ見学者の目を引き付けます。

この古墳は本学を主として1985(昭和60)年から発掘調査が始まり、未盗掘の古墳から巨大な石棺や国宝級の遺物が見つかったことで注目されました。石棺の移動実証実験のため、本学と発掘に参加した奈良県の建設会社が協力して、複製が実現しました。

間近で見る 先人の研究成果

常設展示室にある古墳時代の甲冑の復元模型は、埋蔵による錆と変形で原形をとどめない甲冑のかけらを、末永名誉教授がつぶさに観察し忠実に復元したものです。

博物館では、復元・再現資料を通して先人の研究成果を間近で見ることができます。

博物館にはもちろん復元資料以外にも考古、歴史、民俗、美術・工芸などの分野の文化財が所蔵されています。中には校友のコレクションも多数寄せられています。例えば羽間コレクション。第16代学校法人関西大学理事長を務め昨年9月に逝去した羽間平安氏が寄贈した、江戸時代の広島藩三原城主・浅野忠義公が着用した具足や京都で舞踊に使われた打掛などは秀逸です。



末永雅雄先生復元 三角板鉾留眉庇付冑・胴丸式挂甲
(さんかくいたびょうどめまびさつつかぶとどうまるしきけいこう)

今後の企画展

◇ 2022年12月5日(月)~2023年1月21日(土)

冬季企画展「津田秀夫文庫を調査する—古文書の収集と保存—」

関西大学元教授 津田秀夫(1918~1992)旧蔵の古文書目録の完成を記念して、整理・調査作業で得られた成果や中世~近世の古文書や絵図を紹介する。

◇ 2023年2月13日(月)~2月25日(土)

「関西大学と村野藤吾 設計図・写真・絵画」/ミニテーマ展「お経と印刷」

千里山キャンパスにある村野藤吾建築物の写真展。仏教典籍と印刷に焦点をあてたミニテーマ展を同時開催。



総合情報学部 4年次生

大杉 有輝さん

見た人に新たな発想を与えられることが
映像制作の魅力

大杉有輝さんは、メディアクリエイティブサポーター(MCS)に所属する総合情報学部の4年次生です。MCSは映像を通じて総合情報学部を盛り上げる学生団体で、100人を超える学生が集まり、制作・技術・広報のグループに分かれて映像制作を行い、YouTubeなどで配信しています。

大学に入学するまで映像制作の経験はありませんでしたが、幼い頃からテレビCMを見ることや、何かを作り出すことが好きだった大杉さん。映像制作のみならず、制作に生かせる心理学なども幅広く学ぶことができるため、総合情報学部への進学を決めました。

1年次ではMCSの広報を担当しながらも、カメラや音響などの機材に触れ、常に何かを表現することに挑戦してきました。中でも学部PR動画の制作に携わったことは貴重な経験だったと振り返ります。「企画と編集を映像会社に依頼したので、自分たちが考えた企画案や撮影時のライティング、画角に対して、プロ目線での鋭い指摘を受け、多くの刺激と気付きを得ることができました」と大杉さん。

10月には、自身が所属する長谷海平ゼミの有志メンバーで「48時間映画祭」に再挑戦しました。当日会場で発表されるテーマや必須条件などに沿って、48時間以内に構成・台本・俳優の手配・撮影・編集の全てを行い、8分以内の映画を制作します。「前は初参加ということもあり、明らかに準備不足でした。今回はその反省を生かして万全の態勢で臨み、私はチームリーダーとして音声を担当しました。与えられたテーマはスリラー、必須アイテムは体温計で、完成した映画の時間は7分59秒でした。制作時間、体力共にギリギリでしたが、細部までこだわり全力でやり切ることができました」と笑顔で語ります。

ゼミでは初めて自分の考えを発表し、自ら発信することの大切さを学んだそうです。「見た人に新たな発想を与えられることが映像制作の魅力です。臆せずに自分の思いを発信し、挑戦することで、新しい自分の側面を知ることができました。皆さんも勇気を持って、興味のある世界に飛び込んでみてください」と締めくくりました。



48時間映画祭の撮影風景
(気合いが入る緊迫したラストシーン)

次回は、大杉さんからのご紹介で大畑直毅さん
(外国語学部1年次生)
が登場。楽しみに!

Yuki Osugi

学部・研究科・併設校トピックス

法学部／法学研究科

留学生との交流で「国際力」を!

法学研究科では、2015年度より、JICA(独立行政法人)国際協力機構)のプログラムの下、アフリカの留学生受け入れを開始しました。(2016年からは本格受け入れのために国際協働コースを開設)留学生は、母国では、裁判官や弁護士、行政官等として活躍してきた方々です。世界からの投資が加速するアフリカは、日本にとっても重要なビジネスパートナーとなりました。みなさんには、関大で学ぶアフリカ等の新興国の留学生たちとも、積極的に交流を深め、「国際力」をアップされることを願っています。

(副学部長 山名美加教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

完成は完璧に勝る

卒業論文を必修に定める学部は今や少数派です。卒業論文は指導する側も大変ですが、それでも課し続けるのは、1年次生からの授業を卒業論文というゴールに向けた過程として位置付けしやすくなることや、何より卒業論文執筆で飛躍する学生を数多く見てきたからかもしれません。

卒業論文は必ず行き詰まる。“Done is better than perfect”は卒業論文においても言えること。そして行き詰まっても誰かが助けてくれる経験も卒業論文で得られる貴重な経験かもしれません。

(石崎博志教授)

経済学部／経済学研究科

試験の準備できていますか?

まもなく到達度の確認、定期試験が始まります。今まで授業を真面目に受けてきたのに、試験がうまくいかないと悲しいですよ。良い成績を取るためにも早めに試験対策の計画を立ててください。大学の試験では、ノートや資料の暗記だけでは解けない問題や自分の考えを問われる問題が出されることがあります。このような問題には、ノートや資料を読み返し、要点を自分の言葉でまとめる練習がオススメです。また試験本番で実力を十分に発揮できるよう日頃の体調管理や感染症対策も忘れずに。

(副学部長 石井光教授)

各学部・研究科・併設校のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

商学研究科への早期卒業制度

商学部では、5年間で商学部卒業(学士の取得)と商学研究科博士課程前期課程の修了(修士の取得)ができる早期卒業制度[商学部・商学研究科5年一貫教育プログラム]を導入しています。私自身も飛び級をして5年間で学部と修士課程を終えましたが、より効率的に学ぶことができ、また得られた機会も多かったように思います。商学部の皆さんにも活用をお勧めします。なお、制度の利用には、成績等の所定の条件があります。ご関心のある方は、詳細を教務センターで確認してください。

(副学部長 木村麻子教授)

社会学部／社会学研究科

旅の安全に気を付けましょう

新型コロナウイルス感染症対策はまだまだ続きますが、そのなかでも少しずつ以前の生活が戻ってきました。春季休業の期間を利用して、この3年間でできなかったレジャーや活動、海外を含む遠方への旅行を計画している学生の皆さんもいることでしょう。特に海外に行く際には、病気やけが、事故に備えて必ず海外旅行保険に加入しましょう。また出発前に現地の情勢を外務省のウェブサイトなどできちんと調べておくことが重要です。安全と健康に気を付けて、実りある春季休業をすごしましょう。

(教学主任 杉本舞准教授)

心理学研究科

特別講演会を2つ実施しました

1つ目は「心理学で起業するー国際心理支援協会の挑戦ー」と題し、11月5日(土)、浅井伸彦氏(一般社団法人国際心理支援協会代表理事、本学社会学部心理学専攻卒業)に、心理士と起業について、2つ目は「台湾の刑事司法への市民参加に関する法と心理学研究」と題し、11月14日(月)、趙儀珊氏(国立台湾大学副教授、本学に交換研究者として滞在)にご講演いただきました。心理学研究科では、今後もさまざまな取り組みを通じ、活気と魅力の充実を図り、大学院進学に対する関心を高めていきます。

(心理学研究科長 申崎真志教授)

政策創造学部／ガバナンス研究科

専門演習での報告のこと

就活面接時にコロナのせいだ「ガクチカ」を盛るらしいですが、専門演習での報告こそが「ガクチカ」だと思います。バイトやサークルよりも、ゼミ報告を頑張った話の方がよほど好感を持ちます。また、ゼミ報告に力を入れたことは後々までの記憶となり、糧となります。しかし、こう言う筆者は、恩師が後年、退職パーティーの際にゼミレポートを返却してくれるまで報告内容をすっかり忘れていました。ただ、そこでのテーマは研究上のライフワークにしていたので、やはり一生ものですね。

(後藤元伸教授)

外国語学部／外国語教育学研究科

留学で学んだこと

英語好きな男子学生から聞いた話です。留学先のイギリスで現地の学生と友だちになり、一緒にヨーロッパ旅行に出かけたそうです。ある観光地で日本人の女性が話しかけてきたそうです。彼女はとてもフレンドリーでいろいろな話をするのですが、その英語がひどいもので、学生は同じ日本人としてとても恥ずかしかったそうです。女性が去った後に友だちに何で言われるか恐れていたところ、イギリス人たちは口をそろえて「なんていい子なんだ。すてきな女性だったね」と言っていたそうです。学生はその時初めてイギリス人は英語の間違いなんか気にしないんだ、と気付いたそうです。それから彼は間違いを恐れず、積極的に英語を話すようになったそうです。

(菊地敦子教授)

人間健康学部／人間健康研究科

人間健康学の意義を問う学術雑誌として

人間健康学部／人間健康研究科は、教員や院生による研究発表の媒体として、『人間健康学研究』(学部紀要)と、『人間健康研究科論集』(院生論集)を毎年刊行しており、現在も今年度号の刊行に向けて、着々と準備を進めています。主にスポーツや福祉を対象に、「こころ・からだ・くらし」を重んじる人間健康学の意義がよく分かる学術雑誌として、学術界はもとより、学部学生の学びや研究にも資するものになることをめざしています。

(教学主任 西川知亨教授)

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

コロナの経験を振り返る

1月は卒業研究の追い込み時期です。定期試験も近く勉強にも身が入ります。現在、コロナの第7波が終わり、第8波が来ようとしています。一部の授業以外、ほぼ対面授業に戻っています。2年前から幾つかのコロナの波を超え、オンラインでの授業を経験しましたので振り返ってみます。

オンラインでも可能な授業はあったと思いますが、対面が必須であると感じた授業として電気関連の実験授業があります。オシロスコープなど、機器を実際に手で触れ操作したという経験は貴重であり、オンラインでは困難です。また、特別研

究では特に実験で機器を取り扱う研究室の場合、現場での作業が必要です。Zoomで結果検討の会議も行いましたが学生に情報がうまく伝わりません。百聞は一見にしかずの状態でした。

コミュニケーションに関しても、会話の際声だけ聞いて返事をしても不十分で、音声以外の周囲環境の情報も五感を使って取り入れ相手の表情を見ながら会話することが大切と私は考えます。マスク有りでの会話は不自然であり、顔が2/3も隠されていると相手の表情を判断するのが難しいです。また、発音した口元が見えないため言葉

が分からず聞き返したことが幾度もありました。

電気電子情報工学科の実験授業では対面で学生のプレゼンテーションを行っています。多くの情報を頭に入力し緊張感のある状態で自分の考えをまとめ出力する必要があります。さまざまな学会も対面での開催に戻りつつあります。久しぶりに対面で学会に参加し、その大切さを実感しました。上記で述べた周囲環境有りでのコミュニケーションから斬新なイノベーションが生まれると考えます。マスクが取れる日を期待しています。(システム理工学部 佐伯拓教授)

Attention 大学からの重要なお知らせ

春季休業期間中の 注意事項

—有意義な春休みを過ごすために—

秋学期試験が終了すると春季休業に入ります。学生の皆さんの行動範囲は少しずつ広がることでしょう。しかし、同時にこの時期は、日常生活からの解放感とそれに伴う気の緩みが相まって、さまざまなトラブルに遭遇しやすくなる時でもあります。貴重な春休みを有意義に過ごし、新学期または新生活を迎えられるよう特に次の点に注意するようにしてください。



関大生としての自覚を忘れずに!

春季休業中は、今まで以上に行動の範囲が広がりますが、周囲の人々や環境への配慮を怠らないでください。誰か一人の軽率な行為によって、大学の名誉や信用を失墜させる事態を招くだけでなく、他の学生への影響もあります。関大生としての自覚を忘れず、良識ある行動を心掛けるようにしてください。

悪質商法・カルト団体に注意!

大学生の間で、実際は何の価値もない商品やサービスを高額で購入させる悪質商法(ネットワークビジネスなど)やサークル活動を装ったカルト団体などによる悪質な勧誘が多発しています。たとえ親しい友人や知人から勧誘を受けた場合でも、少しでも怪しいと感じたら、容易に応じないようにしてください。

薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

近年、大学生をはじめ若者の間で大麻による検挙者が急増し、深刻な社会問題となっています。大麻・覚せい剤をはじめとする違法薬物や危険ドラッグを安易に使用することは絶対にしないでください。あなた自身の健康や健全な学生生活を守るためにも、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

コロナに「感染しない・感染させない」

感染防止の観点から、3密(密閉・密集・密接)を避け、屋内でのマスクの着用、手洗い・咳エチケットを徹底してください。また、静かな飲食を心掛けましょう。学生一人一人が「感染しない・感染させない」行動を。

関大トピックス

ハード食感のグミ「関大めし」を発売

本学は、UHA味覚糖と連携し、関大式携帯グミ「関大めし」(=写真)を発売しました。

「関大めし」のフレーバーは巨峰味。ハード食感で噛みしめるたびにぶどうのおいしさが溢れてきます。パッケージは4種類で、就活や体育会の競技など、学生生活をイメージしたイラストに、学生への応援フレーズをデザインしています。現在、キャンパス内の生協やコンビニのほか、コノミヤ(関西地区)でも販売されています。



法政大と「SDGsアクションプランコンテストー持続可能な未来のために私たちができることー」を開催

12月3日、法政大学との共催で、SDGsアクションプランコンテストを梅田キャンパスで開催しました。

当日は一次審査を通過した10組の学生チームが、SDGs達成に向けての具体的な提案を行いました。

本学関係では、人間健康学部生チーム「おはる畑」が学校の畑を利用して日本の飢餓に取り組む様子を表した「堺市緑計画〜学生が空き地を有効活用」がセブン&アイ・ホールディングス賞とオーディエンス賞を、政策創造学部生チーム「クッカーリー」が発表した「献血ごっこ」がクリエイティブ株式会社・ダイドレ株式会社賞を、環境都市工学部生チーム「地域再生(丹波)展示グループ」が発表した「展示を通じた持続可能な社会の実現のための提案」がジーエルサイエンス株式会社賞をそれぞれ受賞しました。いずれの団体も日頃からSDGsを学生により身近に感じてもらうような活動に取り組んでおり、今後の活躍が期待されます。



陸上競技部が全日本大学女子駅伝で8位入賞

10月30日、第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会が宮城県仙台市(6区間38.1キロ)で行われ、本学の伐栗夢七さん(法2)、木下茜さん(人4)、磯野美空さん(社3)、石松空さん(文2)、飯島果琳さん(政策3)、近藤来那さん(人3)の6人が2時間10分00秒で8位となり、2年ぶりにシード権を獲得しました。



8位でゴールする6区の近藤来那さん
(関西大学スポーツアドミニストレーター永富慎也氏撮影)

応援団が野球部激励会を開催

関西学生野球秋季リーグ戦を2シーズンぶりに制した野球部は、関西地区大学選手権において天理大学を破り、第53回明治神宮野球大会に出場が決定。11月16日、その野球部を激励する会が千里山キャンパスで行われました。

激励会を企画したのは応援団。明治神宮野球大会が開催される神宮球場での応援演武が一切できないことから実現したもので、当日はリーダー部、パトロン・チアリーダー部、そして吹奏楽部が一体となって野球部にエールを送りました。最後には、応援団員が手書きで作成した横断幕を手渡し、野球部に応援団の思いを託しました。

本学は11月18日、1回戦で東京農業大学北海道オホーツクに4-1で勝ちましたが、20日の準々決勝で明治大学に1-2と惜敗。目標とする「全国制覇」は来年に持ち越しとなりました。



応援団の思いが詰まった横断幕を受け取る

関大人 四方山話 ◆ 武道の話 図書館事務室 久保田 真也



お正月の風物詩として、新成人による晴れやかな三十三間堂の通し矢が話題になる。

大学では弓道部に所属していたが、数年前、縁あって約30年ぶりに稽古を再開した。学生時代はいかに的中させるかがもっぱらの目標であったが、それなりに「生きること」について経験してきた今は、弓道を学ぶ上で語られることに留意するようになった。

弓道の基本的な考え方の一つに中国古典「礼記-射義」の次のような教えがある。「射は仁の道なり。射は正しきを己に求む。己正しくし

て而して後発す。発して中らざるときは、則ち己に勝つ者を怨みず。反ってこれを己に求むのみ」。

武道を学ぶことは、何が最善であるかを常に自らに問いかけることである。人はうまくいかないと、誰かのせい、また運のせいにしがちになるが、本来すべきことは、「できることはすべてし尽くしたのか」を自らに問うこと。やり尽くしてなお到達できなければそれもやむなし。ただし、次の挑戦では、その経験が生きる。武道には、前向きに生きるための心得がある。

編集後記

今月号の特集では関大版「いろはかるた」を作ってみました。一文字ずつ読んでみると、「なるほどね」とうなずけるものばかりです。かるたやトランプと言え、かつてはお正月に親戚が集った時や、友人と旅行に行った時などに一緒に楽しんだものですが、今は集まる機会があってもスマートフォン片手に自分の世界に入っている子どもたちがほとんどです。こんなところにも生活が便利になったことでコミュニケーション不足を生んでいるように感じます。今一度、アナログな遊びに目を向けてみてはいかがでしょうか。(広報委員・化学生命工学部教授 古池哲也)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2023年1月11日

発行:関西大学広報委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話:06-6368-1121(大代表)

今月の表紙

特集の関大版「いろはかるた」に関連して、学術研究会マス・コミュニケーション学研究部の皆さんに「かるた」の絵札のイラスト化を依頼しました。表紙に掲載している絵札は、学生目線のユニークなものばかりです。皆さんの力作をご覧ください。

作成者: 河井玲緒(法学部2年次生)、中戸詩織(文学部2年次生)、藤原采理(社会学部2年次生)、向山温登(経済学部1年次生)

感染拡大予防策を講じた上で、取材や制作を行っています。